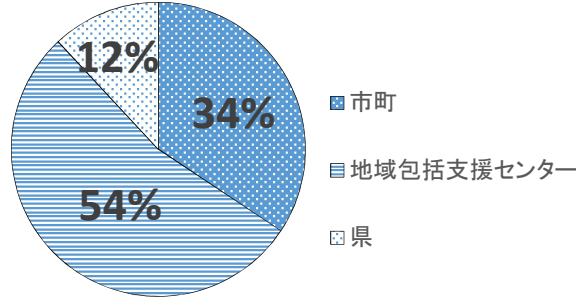
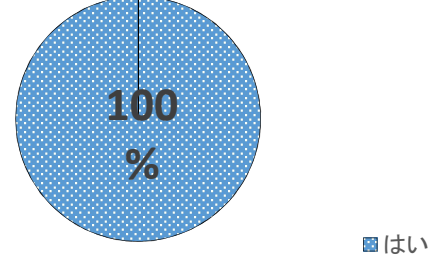


Q1 あなたの所属についてお答えください



Q2 今後の取組に生かせるヒントはありましたか



Q3 Q2の具体的な内容について記入してください

○ACPの取組

- ・ACPについて、1人だと考えにくいけど、一緒だと考えやすい。
- ・彩ノートの内容を今後の活動に参考にしていきたい。保健事業との連動もより一層必要と感じた。
- ・活用されているツールについて参考してみたい。
- ・ACPの普及により住民が自宅でも看取ることが出来ると認識することができる。
- ・ACPの普及開発と看取りは繋がっており、一緒に考えることが必要。
- ・在宅看取りの実体験を聴ける講座を開催することで、身近に感じることができる。
- ・彩ノートを参考に包括独自で作成できれば良いなと思った。
- ・他の包括支援センターにおける「ACP」に対する課題点の共有
- ・エンディングノートの取り組み方
- ・ACPの取り組みについて、普及推進員の研修に参加しているが、周知について今後の課題。今までサロン等で啓発活動を行うが、実際書き込みが出来ているか不明な点もある。ケアマネ・住民への周知に加え、子供が親を知るきっかけであり、一緒に記入する等今後の課題としたい。
- ・ACPについて、講演会や学習会を通じて実際にその場でノートに記入してもらおうよう取り組んでおられ、みんなで記入することで記入のとっかかりを作ることが出来ると感じた。
- ・ACPの普及啓発の取り組み方。普及にはACPの普及啓発員を活用していくこと。
- ・人生会議の取り組みについて
- ・ACPの今後の普及啓発方法の新たなやり方のヒントをもらえた。
- ・市独自の意志決定ノートづくり。それを活かしたり、普及させるための方法
- ・ACPの普及啓発事業において、単なる講演会等による啓発のみでなく、小地域での学習会(実際に記入してみるなど)の取組
- ・実際に在宅看取りを行った家族の視点からの普及啓発
- ・ACPの普及啓発活動と認知症地域支援推進員の連携

○事業所連絡会の取組

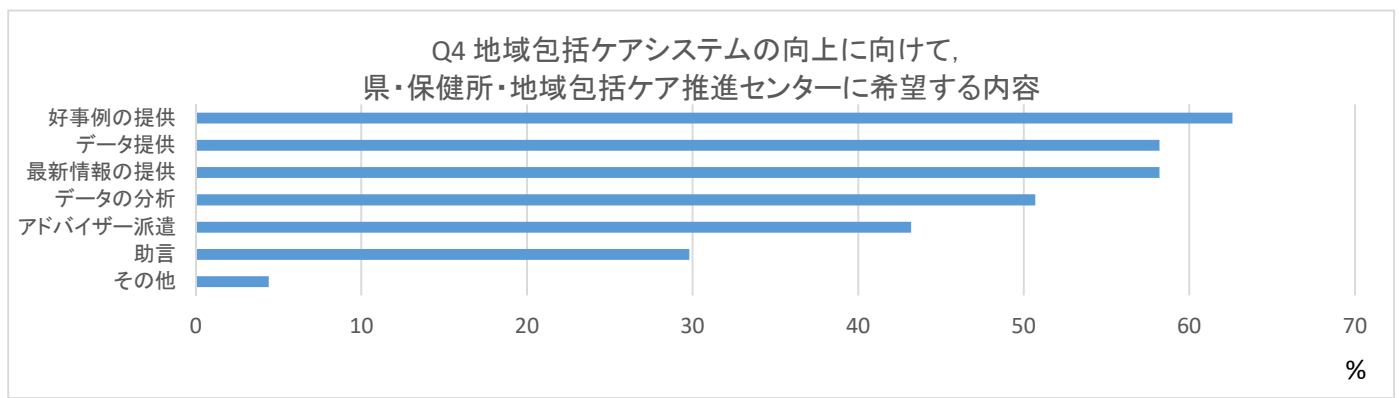
- ・県域でも小規模事業所の集まりを実施しているが、三次市の事業所が中心となる方法がとても参考になった。
- ・地域密着事業所の連絡会
- ・事業所連絡会での規範的統合について参考にしたい。
- ・町内の事業所連絡会の運営方法に参考となった。
- ・連絡会の立ち上げや通いの場作りでは、他の市町や地域包括支援センターも、同じように考え悩みながら取り組んでいるのだと知ることができ、力を頂いたように感じた。
- ・サービス別事業所の横の繋がりがづくり。

○通いの場の取組

- ・通いの場の活動について特に参考になった。
- ・廿日市の発表の中で専門職をいかに効果的に繋げるかというヒントを得た。
- ・通いの場を継続させるためのモチベーション支援
- ・通いの場における早期介入、認知症推進員への繋ぎと認知症啓発を併せて行うことで続けて参加できる環境を作ること。
- ・通いの場における、他市町での取り組みから学ぶことが多かった。マンネリ化の対策や集会所のバリアフリーなどとても参考になった。
- ・100歳体操のフォローにリハビリ職だけでなく、口腔や栄養、認知症の専門職が関わること。
- ・通いの場における具体的な取り組みや連携の工夫点
- ・通いの場発展への取り組みについて(廿日市市)のところで、集会所の住宅改修や福祉用具の提案をしてもらったということ。そこに通う地域住民の様子を事細かに見ていくことの大切さや、専門職に助言をもらうことで地域住民が使いやすい集会所にしていくという取り組み。
- ・通いの場の発展や地域への働きかけにそれぞれが取り組まれている様子が理解できた。
- ・通いの場では、専門職と連携を取りながらも、住民の主体性を尊重していくこと。集会所の住宅改修という視点、どんな人でも参加できる環境づくりのアドバイスを行うこと。
- ・いきいき百歳体操の支援体制について参考となった。
- ・通いの場で、認知症状の気になる方向けにあんしんガイドブックを活用した例は、とても参考になり、実践したいと思った。
- ・廿日市市の集会所の改修の事例
- ・通いの場への専門職の関与の仕方等
- ・廿日市の取り組みで専門職が社会資源の把握を行い、多職種で連携して地域の実情をはあくできる取組について、多くの市町も参考に展開して行けたら良いと思った。
- ・廿日市市の、リハ職が集会所の改修に関わるという例は目からウロコだった。他の職種の話も含め、通いの場への専門職の関わり方や関わることの効果が分かりやすく示されていた。

○全体

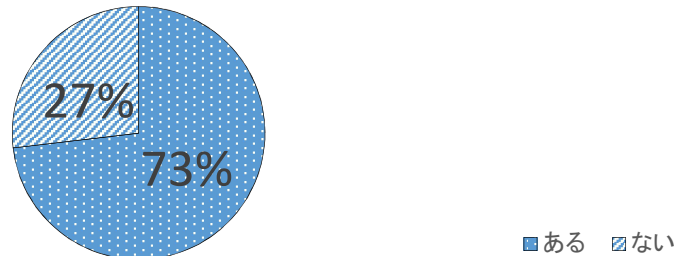
- ・より積極的な専門職の介入
- ・具体的事例で、取り入れてみたいと思える内容だった。
- ・実際に取り組んでいる事例を聞くことで、活かそうなことは取り入れていきたい。
- ・広島市の枠の中でだけしか考えていないことが多いですが、他の保険者の取り組みを知ることで、考え方のヒントになることがあった。
- ・住まいについてなども今後連携を取れるところがあるのではないかと感じた。
- ・医療と介護の一体化に向けて、ツールや手段の方法について学べた。
- ・包括として、専門職と地域住民と両方に啓発、連携を行なっていく必要があると改めて感じた。
- ・広島県全体の評価指標の現状の確認と共通概念の再認識、市町による特徴的な取り組み
- ・大学や事業所を巻き込んだり、専門職を巻き込むなど、多職種連携をすることを見習いたい。
- ・何をすることも広い視野で、多職種が連携して行うことが大切だと感じた。
- ・令和元年度地域包括ケアシステム評価結果、事例発表・質疑応答と、グループワークを通して、今後の市町での取組を考えるヒントを得た。
- ・地域の特性を活かした取り組みを学べた。
- ・必要性を理解し、今後地域住民や事業所に伝えて、広めていきたいと思った。
- ・目標設定の過程、取り組みの過程が良い学びになった。



Q5 具体的な内容について記入してください

- ・ACP実践の好事例の提供/保健師業務の事例/先進的な好事例の提供/市町の課題発見から解決までのサポート等
- ・医療、介護連携の好事例の提供、最新の情報と今後の見通し
- ・地域包括ケアシステムの向上におけるICTツールの活用事例
- ・データ上から見る課題の分析、医療介護連携の好事例の提供、他市の事例や他市(県内外問わず)との意見交換の機会
- ・医療・介護の県内外の情報提供、自立支援型地域ケア会議についての情報提供、アドバイス及び支援。必要に応じてのデータの提供等
- ・通いの場のマンネリ化に対して、どのようなアプローチをしていくのが良いのか、好事例などあれば知りたい。
- ・他地域での通いの場についての情報提供、体力測定データの評価と分析についての情報提供、ACPを活用した事例についての情報提供
- ・オンライン会議なら交通に係わる時間も経費も削減できるので、今後もオンラインの研修を増やしてほしい。他県も含めた研修の情報提供
- ・好事例の提供:三原市の取り組みである「認知症の方の独り歩きについての模擬訓練」を詳しく知りたい。
- ・医療機関へ働きかける際に保健所等の支援が欲しい。
- ・市町別のデータ分析による課題の整理。自立支援型ケアマネジメント会議による好事例など。

Q6 特徴的な取組はありますか



Q7 具体的な内容について記入してください

○「ある」と回答した理由

- ・ともいきネット(広島市包括)
- ・「君クレはーと」体操のDVDを配布活用(呉市)
- ・避難行動要支援者の名簿は民生委員が作成、追加等を行い、自治会が管理・更新している。(福山市)
- ・社会資源の取りまとめ、地域版のねこのて手帳の作成。(尾道市)
- ・より小さな地域(自治振興区)を単位とした、「身近な地域包括ケア」を推進している。(庄原市)
- ・ACPメイトで普及・啓発の活動をしている。担当エリアの住民の方々や専門職を対象に在宅ケアカフェを開催し、多職種で事例を通してACPを考えたり、医療・介護連携を図っている。またサロンでもしバナゲームを使って啓発したりしている。最近ではACPは、マイナスなイメージになりやすいので、まずはサロンなどで、これから手帳を使って自分の楽しみだったりを考えてもらい、その後ACPIにつなげていく取り組みを行っている。(福山市包括)

○「ない」と回答した理由

- ・どこの市町でも取り組んでいるようなことがされている
- ・他市町の状況がわからないので、特徴的な取組をしているのかどうかわからない